

# タッチパネル 接着均一に

## FUK、90インチ液晶に対応

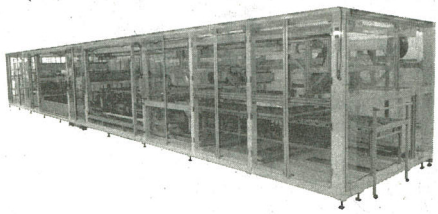
液晶パネル製造装置メーカーのFUK（奈良県御所市）は90型の大型液晶ディスプレイにタッチパネルを張り合わせる装置を開発し、販売を始めた。大型のタッチパネルは貼り付け時に圧力のムラが生じがちだが、固定

したディスプレイに移動して貼り付ける方式を採用して可能にした。デジタルサイネージ（電子看板）の普及に伴う需要拡大に対応する。

開発した装置は上部に下向きの液晶ディスプレイを固定し、板の上の

せたタッチパネルを下から動かして張り合わせる。板の下にあるローラーと板の両側を支える機器で高さや圧力を制御する仕組みだ。

主力のスマートフォン（スマホ）やタブレット（多機能携帯端末）向け



90型の大型液晶にタッチパネルを張り合わせられる

ル自身の重みで中央部分がたわんでしまい、接着時に気泡が入り込むなど張り合わせに問題が多かった。

では上部に下向きのタッチパネルを固定していた。大画面になるとパネ

それぞれ赤外線を発し、指で遮られることで画面の接触を感知する方式が

主流だった。FUKの新しい方式」が可能になる。価格は1億円から。このほど大手液晶メーカー

## 東芝の車向け画像認識半導体

# デンスソー、カメラに採用

東芝は6日、車載向けの大型液晶ディスプレイは教育機関や企業で電子黒板に使うほか、商業施設などでも電子看板として普及が進む。従来は液晶の縦方向と横方向から

た。同システムを搭載した車両は今秋から販売される予定だ。

や車両、歩行者、標識などを認識する半導体。東芝独自の画像処理システムを搭載し、複数の画像認識のソフトウェアを同時・並列に処理したり、

に出荷した。市場拡大をテコに年間5台程度の出荷を目指す。

消費電力を低く抑えたりしたのが特徴だ。

東芝はビスコンティ2の後続として画像処理性能を高めた「ビスコンティ3」や夜間の歩行者認識などの性能を高めた「同4」も製品化している。自動運転車の普及をにらみ需要の高まる車載用半導体に注力する。